

グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年9月2日～9月8日】

[当地報道をもとに作成]

平成25年9月10日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼アブハジア鉄道の再開をめぐる議論(6日)

・6日、アルメニアのメディアが、「バグダサリヤン・アルメニア国家安全保障会議書記が『ロシア、グルジアおよびアブハジアがアブハジア部分の鉄道の再開について合意した』と述べた」と報じたことについて、アブハジア「当局」は「鉄道の再開はソチでもピツンダ（ピチヴィンタ）でも大統領会談で取り上げられていない」として、合意の存在を否定。

・グルジア政府も合意を否定する声明を発表。

【南オセチア】

▼サナコエフ・南オセチア「外務大臣」がカラーシン露外務次官と会談(2日)

・モスクワにて、露・南オセチア関係、南コーカサス情勢などについて会談。

▼南オセチア代表団が沿ドニエストル「共和国」の建国23周年の式典に出席(3日)

・コチエフ・南オセチア「国会議長」を代表とする代表団が、シェフチュク・沿ドニエストル「大統領」の招きで訪問。

▼露・南オセチアの「国境」画定に係る合意文書への署名の計画(4日)

・8月27日に露政府の閣議で決定された露・南オセチアの「国境」画定に係る文書が、プーチン露大統領に送付された。

2. 外 政

▼スウェーデン国会の代表団がグルジアを訪問(3日—5日)

・サーカシヴィリ大統領、イヴァニシヴィリ首相、ウスパシヴィリ国会議長らと会談。

・ウェステルベルグ・スウェーデン国会議長はウスパシヴィリ国会議長と会談後、「スウェーデン国会内の8つの党のうち7党、90%以上がEUの拡大を支持している。条件さえ満たせば新たな国がEUのメンバーになることができる。我々は旧ソ連諸国との協力の発展を支持している」と話した。

▼シリアからのグルジア国民の国外脱出に対する支援をロシアが提案(3日)

・カラーシン露外務次官がアバシゼ対露関係特別代表と電話で会談し、「報道で約20名のグルジア国民が現在シ

リアにいることを知った」として、人道物資を運ぶためにシリアへ定期的に運航している露緊急事態省の航空機を利用してグルジア国民のシリアからの国外脱出を支援する用意があると提案した。

・4日、イヴァニシヴィリ首相は記者会見でロシアからの提案に触れ、「歓迎する」と述べた。

▼ベネルクス3国の外務大臣がグルジアを訪問(5日—6日)

・サーカシヴィリ大統領、イヴァニシヴィリ首相、パンジキゼ外務大臣と会談。

・アッセルボルン・ルクセンブルク外務大臣は、「我々がグルジアの友人としてここに来た目的は、民主化を更に進め、民主主義を安定させるためである」と話した。レインデルス・ベルギー外務大臣は「我々はEUに接近し、NATOに加盟するというグルジアの決定とそのプロセスを支持する」と述べた。

▼ユーラシア同盟についてのイヴァニシヴィリ首相の発言(4日)

・4日、記者会見でロシアの推進するユーラシア同盟についての考えを尋ねられたイヴァニシヴィリ首相は、「注意深く見ており、我々は研究している。現段階ではいかなる考えもない。調べた結果、グルジアの戦略にとって興味深いということになれば、どうしていけないだろうか？しかし現段階ではいかなる考えもない」と返答。

・同4日、「統一国民運動」(UNM)の議員やボケリア国家安全保障会議書記らが「極めて憂慮すべきだ」「グルジアの外交の優先課題に真っ向から反対するものだ」として首相の発言を批判。

・翌5日、「イ」首相は書面で「EUおよび欧州・第西洋との統合という方針は我々の政策の基礎であり、不変である」「ユーラシア同盟が、その方針に矛盾することなく、グルジアの国益に適うものであれば議論しよう」と説明。

・アラサニア国防大臣およびパンジキゼ外務大臣は、政府内でユーラシア同盟について議論されたことはないとのコメント。

▼イヴァニシヴィリ首相がラトビアを訪問(6日—8日)

・首相にはクヴィリカシヴィリ経済・持続的開発大臣、ペルタイア国家投資局長、パンジキゼ外務大臣、ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣が同行。

・ラトビアのベルズインシュ大統領、ドンブロウスキス首相、アーボルティニャ国会議長、ビジネスマンのグループと会談。

・「ド」ラトビア首相は会談後、「ラトビアは、ラトビアがEU議長国になる2015年にリガで開かれる首脳会議で

調印を行なうため、ヴィリニウスでの EU 東方パートナーシップ首脳会議における EU・グルジア連合協定の仮調印を支持する」と述べた。また、「イ」首相に対し前政権の高官の逮捕や裁判についての EU の懸念を伝えた。両首相は二国間の経済関係を成長させる大きな可能性がある」と述べた。

・6日～7日、外交・安全保障政策に関する国際フォーラム「リガ会議 2013」が開催され、「イ」首相、パンジキゼ外務大臣、ボケリア国家安全保障会議書記、ダルチアシヴィリ国防次官が出席。

▼イヴァニシヴィリ首相がシコロスキ・ポーランド首相と会談(8日)

・9月6日～7日、ヴィリニウスで行なわれた EU 諸国の外務大臣の非公式の会合に出席した後、リガでイヴァニシヴィリ首相と会談したシコロスキ・ポーランド外務大臣は、グルジアが全ての条件を満たした暁には、現在の欧州委員会の任期が切れる前に、グルジアとの連合協定に署名することで合意したと述べた。現在の欧州委員会の任期は 2014 年 10 月 31 日まで。

▼シリアからグルジア国民が帰国(8日)

・外務省によればシリアから 18 名のグルジア国民が帰国する。8日、うち 12 名がイスタンブルを経由して空路で帰国した。6名はベイルートから船で帰国する。

▼イヴァニシヴィリ首相がエストニアを訪問(8日—9日)

・パエト・エストニア外務大臣と会談後、イヴァニシヴィリ首相は「グルジアは 2014 年春に EU との連合協定に署名することを目指す」と述べた。

3. 内 政

▼イヴァニシヴィリ首相が任期途中の辞任の意思をあらためて表明(2日)

・フェイスブックに投稿されたメッセージで「イ」首相は、「私の次の重要な仕事は健全な市民社会を発展させることである。そのような社会の形成は、欧州型の民主的な市民国家の確立に資するものとなる」「大統領選挙ではマルグヴェラシヴィリ元副首相が第一回目の投票で当選を決めるだろう。大統領選挙が成功裏に終わり、国が選んだ針路が変わらないことを確信した後に、辞任の時期を発表する」と述べた。

・UNM の大統領候補バクラゼ前国会議長は、「このような声明は不安定化を助長し、既に危機にあるグルジア経済に対する深刻な脅威となる」「首相の辞任は政府の意思決定の欠如に繋がり、不安定と混乱を引き起こすだろう」とコメント。

▼秋季国会が開会(3日)

・ウスパシヴィリ国会議長は開会に先立ち、憲法改正や警察に関する法案など多くの重要法案があり、秋季国会は非常に困難で張り詰めたものになると述べた。

▼中央選挙委員会はズラビシヴィリ元外務大臣の大統領選挙への立候補の申請を不受理(3日)

・3日、二重国籍を持つ者は大統領、首相、国会議員に就くことができないとする憲法第 29 条 11 項の規定のもとに、中央選挙委員会が立候補の申請の不受理を決定。「ズ」元外務大臣はフランスとグルジアの二重国籍を持つ。

・4日、「ズ」元外務大臣は、中央選挙委員会の決定を不服として裁判所に提訴。「ズ」元外務大臣を弁護するグルジア青年法律家協会の代表者は、憲法は選挙に立候補することを禁じているわけではなく、当選の暁にはフランス国籍を放棄して大統領に就任すればよいと主張。

・6日、トビリシ市裁判所は、「ズ」元外務大臣の二重国籍を理由に、中央選挙委員会の決定を支持。「ズ」元外務大臣は上訴したが、10日、トビリシ控訴裁判所は市裁判所の決定を支持。

▼内務省に保管されていた要人の盗聴・盗撮資料を破棄(5日)

・前政権により違法に収集されたものとして、大量の盗聴・盗撮資料の破棄の手続きや方法について数カ月にわたって議論されてきた。メディアの立ち会いのもと、181 時間分の 144 の映像ファイルが破棄された。

▼バラタシヴィリ公共放送局長が解雇される(6日)

・公共放送局 (GPB) の評議員会が決定。
・「バ」氏は 3 月にも解雇されたが、不当解雇であるとの訴えが裁判所に認められ、4 月に復職していた。
・「バ」氏は、評議員会が UNM の影響下にあり、政治的な動機により解雇を決定したと批判。

▼大統領が拒否権を行使した法案 3 本を国会が再承認(6日)

・高等教育に係る法改正、2014 年末まで農業用地の用途の変更を禁じる法案、および、トビリシ市内の文化財の資格の認可権限をトビリシ市当局から文化省に移管する法改正の 3 件。
・2012 年 10 月以降、サーカシヴィリ大統領は国会の承認した 11 の法案に対して拒否権を発動している。そのうち 10 本が国会で再承認された。

4. 経 済

▼8月のインフレ率は前年比マイナス 0.4%(3日)

・7 月は前年比 -0.2% であった。8 月の月間インフレ率は 0%。年率で食品・非アルコール飲料の価格が下がったのに対し、医療費、ホテル・レストランなどのサービス費が上昇。
・8 月にグルジア国立銀行は公定歩合を 25 ポイント切り下げ、2008 年以降最低の 3.75% に。

▼グルジア国内のホテル数(3日)

・国家統計局によれば、2012 年中に新たに 161 のホテルがオープンし、2012 年末の時点でグルジア国内のホテルおよびホテル型の宿泊施設の数 777 (前年比 166 増)。

部屋数は14,463（前年比1,562部屋増）。それらの施設の従業員数は8,561人。

・2012年の宿泊人数は1,185,100人（前年比332,100人増）。うち外国人は665,500人。

▼2013年第2四半期のビジネスセクターの雇用・平均給与(3日)

・国家統計局によれば、ビジネスセクターの平均給与は793ラリ（女性582.1ラリ）。企業の従業員数は50万3500人（前年同期比400人増）。

▼ロンドン証券取引所グループの代表団がグルジアを訪問(4日)

・クヴィリカシヴィリ経済・持続的開発大臣と会談。グルジアの株式市場の発展の見通しやロンドン証券取引所グループとの協力について議論。「ク」経済・持続的開発大臣によれば、金融市場の整備は現政権の経済政策の最優先課題の一つ。

▼グルジア経済についてのイヴァニシヴィリ首相の発言(4日)

・一部の経済指標の悪化を認めつつ、その理由は前政権の経済運営にあると主張。グルジア経済は10%しか機能

していないとして、今後大きく成長する可能性があると述べた。

・「グルジアが2番目のドバイになる可能性は15%から20%ある」と発言。

▼国際競争力ランキングでグルジアは148か国中72位(5日)

・世界経済フォーラムの発表したグローバル競争力ランキングで昨年より5位上昇。アゼルバイジャン39位、アルメニア79位、トルコ44位、ロシア64位。

・指標別では労働市場の効率性40位、制度64位、インフラ56位、マクロ経済環境61位、健康と初等教育70位、金融市場の発展75位、市場規模103位、ビジネスの洗練度120位、創造性126位。

▼BTCパイプラインおよびバクー・スプサ・パイプラインを通過したアゼルバイジャンの原油輸出量(4日)

・アゼルバイジャンの国営石油会社SOCARの発表によれば、BTCパイプラインを通過した2013年1月～8月の原油輸出量は12,479千トン（前年同期比371千トン減）。

・バクー・スプサ・パイプラインを通過した1月～8月の原油輸出量は1,837千トン。